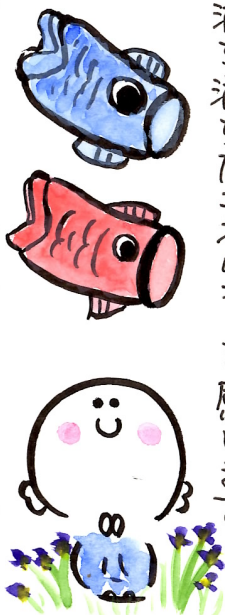


おちさんからの手紙、十五通目（平成三十二年五月）

新緑眩しい季節となりました。若葉の芽吹きに満ち満ちたエネルギーを感じます。

我をかざる

「めざめいは口よりいでて身をやぶる。
さいわいはじよりいでて我をかざる。」



こゝは、日蓮聖人という鎌倉時代のお坊さんが残された言葉で、私の大好きな一節です。口から出てるめざめいの元とは、心ない言葉です。自分の口から出た何気ない言葉は、時として凶器となり、相手を傷つけ、同時に自身をも傷つけてしまいます。

こゝは逆も然ります。言葉は、良くと悪くと力を持っています。だからこそ、大切に、気を付けなければなりません。にある言葉を発すやば、それは良きエネルギーを生み出します。

では、その心は何でしょうか。それは、感謝の心です。感謝の心から紡がれる言葉は、回りと喜ばせ、勇気づけ、元気にしていきます。それを代表する言葉は、「ありがとう」。
言葉は、心づいていいのだと思います。大切なのは、そこに込められた思いであり、うやべだりではないにある「ありがとう」です。

有り難い

先述した「ありがとう」という言葉は、実は仏教由来の言葉であり、漢字では「有り難い」と書き、「有る」ことが難しい「あったにない」という意味です。出処は、お釈迦さまが弟子に対して、人間として生まれることがどれほど有り難いことであるかとお説きになった説話の中にあります。

では、「ありがとう」の反対の言葉は何であると思いますか。こちらもは自らが普段段からよく使っている言葉です。「ありがとう」の反対の言葉は「ありがとう」という意味をもつ「あたりまえ」という言葉です。

今一度想にも巡らせる



「あたりまえ」という感覚に包まれた私たちの日常。その中の「あたりまえ」と思っていることと「ありがとう」という言葉に置き換え、改めて考えてみて下さい。こうするだけで、たくさんの気付きがあるはずです。

今一度想にも巡らすことで、多くの恵みに気付く。自ずと「自分はたくさんの支えの中に生まれている」中には「生かされている」との想いが、心の底から湧き上がってきます。そんな素直な感動が「ありがとう」の言葉と共に、手と合やすおや頭を下げる行為となり、そのまま「自分もお役に立ちたい」と生きたるに成長していくのだと信じています。そして、その感情は決して義務感というものではなく「そうせずにはおれない」という願いだと思つてます。この願いに呼応した振る舞いによって、我はかざされていくのです。

感謝の心には、とても大きな力があります。感謝できる人であり、感謝できる人でありたい。そう願う、私は生かされています。